

連合 2014平和ナガサキ集会開かれる

「核兵器廃絶運動を粘り強く取組もう！」

～全国から連合組合員など3,300名が参加～



平和ナガサキ集会に参加した連合福島派遣団の皆さん、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、国際労働組合総連合 (ITUC) や、平和首長会議、長崎平和推進協会等と連携し、職場や地域における核兵器廃絶運動を粘り強く取り組む。」と挨拶した。

続いて、「2015NPT 再検討会議第3回準備委員会報告と再検討会議への展望」と題し、長崎大学核兵器廃絶研究センター 広瀬 訓副センター長は、「日本の役割として、『唯一の被爆国』と『原爆の非人道性』の原点に立ち返ることが重要である。」と講演した。

第2部の次世代への継承では、被爆者の訴えとして、(公財)長崎平和推進協会継承部会の原田美智子さんが、6歳時の被爆体験を語り、「自分の命は大切、他人の命はどうでもいいのか。戦争を起こさせないようにするのも、人の心。ご先祖から頂いた大切な命を大事にして、戦争を起こさせない心の輪広げて行きましょう。」と訴えた。

最後に、連合長崎女性委員会 白倉あけみ委員長から「ナガサキからの平和アピール」が提案され、満場一致で採択。フィナーレで集会参加者全員が「原爆を許すまじ」を合唱し、長崎平和集会は閉会となった。

連合福島平和行動 in 長崎派遣団一行は、平和集会参加後、長崎平和公園、長崎原爆資料館等を視察し全行程を終え、8月10日福島への帰路についた。

一瞬にして7万4千人余の命が息絶え、7万5千人余が傷ついた原子爆弾が長崎に投下されて、今年で69年目を迎えた。核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求める、「連合 2014 平和ナガサキ集会」は、8月8日(金)、長崎県立総合体育館メインアリーナを会場に、全国から連合組合員など約3,300名が参加し開催された。連合福島からは、派遣団としてUAゼンセンの大和田武さんを団長に、13名が参加した。

主催者を代表して連合の神津里季生事務局長は、「2015年4月に開催される核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議まで、連合の構成組織・地方連合会、全組織をあげて1000万署名を取り組み、



連合2014平和ナガサキ集会の様子